

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2021 号

The association between obesity and hyperactivity/anxiety among elementary school students in Japan

(本邦の小学生における肥満と多動/不安の関連について)

鈴木 洋平 (すずき ようへい)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、欧米諸国に比して肥満児童の割合が低いと想定されるアジア人の集団を対象として、小学生女兒において多動及び不安が肥満に影響を及ぼす可能性を初めて明らかにした意義ある論文である。

日本人小学生における多動及び不安が肥満に及ぼす影響について悉皆的に調査することを目的として、松山市内の全小学校の児童を対象に横断調査を行い、性別毎に肥満の有病率比を算出した。また、多動及び不安と肥満の関連に対する年齢及び偏食による交互作用の有無、及び多動と不安の間の相加的な交互作用の有無について検討した。女兒では、多動と不安の両者を併せ持っている児童の方が、両者とも持たない児童に比べて、肥満の有病率比が有意に増加し、その一方で、男児では、多動及び不安の有無に関わらず、有病率比の有意な変化は認められなかった。肥満と多動及び不安の関連に対する年齢及び偏食による交互作用は、男女ともに認められなかった。過剰相対リスクは、男児では 0.00、女兒では 0.18 となり、多動と不安は各々独立した経路により肥満と関連している可能性が示唆された。

本研究は、松山市内の全小学生を対象とした悉皆調査で、かつ回答率 90% という高い回答率が得られた集団による研究である。松山市の女兒において、多動と不安の両者を併せ持つことにより肥満の有病率が上昇することを明らかにしており、女兒においてのみ有病率の上昇が認められた点に関しては、社会的環境や行動特性等の女兒特有の因子が考えられた。また、欧米諸国に比して肥満児童の割合が低いと想定されるアジア人の集団で、多動と不安の各々が独立した経路により肥満と関連していることを初めて示唆した研究である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。